

P4-3 院内がん登録データからみるがんセンター設立後の治療の状況

名原陽子
松江市立病院経営企画課

はじめに

当院は、2017年春に「がんセンター」を開設した。地域がん診療連携拠点病院として、高精度ながん診療体制を整備し、健診から治療、緩和ケアまでのトータルケアの基盤となり、松江医療圏においてがん治療のコンダクター的な役割を担うことで、地域連携に貢献することを目的としている。開設にあたり、外来化学療法室の新設と放射線治療機器が新規導入され充実した治療環境となった。がんセンター設立による治療状況の変化を院内がん登録データを用いて明らかにする。

方法

2013年から2022年の10年間の院内がん登録データから初回治療の内容と臓器別の件数について調査した。

結果

表1.院内がん登録件数の年次推移

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
院内がん登録件数	805	818	869	882	793	868	891	824	875	853
他院からの紹介	389	447	511	543	481	525	544	535	523	538
	48.3%	54.6%	58.8%	61.6%	60.7%	60.5%	61.1%	64.9%	59.8%	63.1%
手術	453	437	439	441	437	476	464	404	461	395
放射線治療	65	71	77	110	92	110	116	105	124	89
化学療法	191	179	199	187	179	189	175	157	159	135
外来化学療法 (のべ件数)					1,965	1,896	1,800	1,988	2,099	2,092

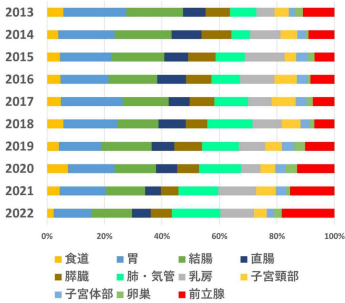


図1.他院からの紹介症例の臓器別分布

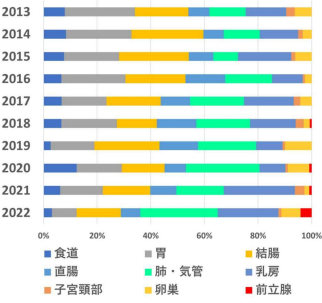


図2.化学療法の臓器別分布

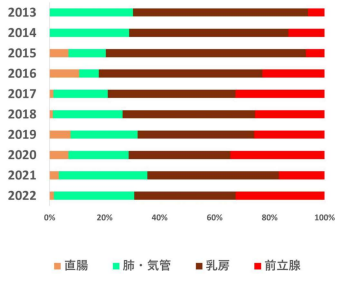


図3.放射線療法の臓器別分布

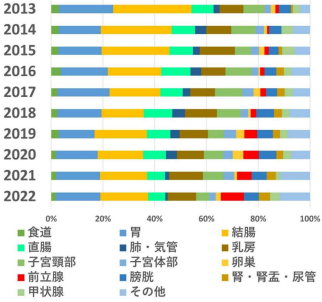


図4.手術療法の臓器別分布

※内視鏡切除を含む

・院内がん登録件数は緩徐に増加し、2022年には853件の登録となっている(表1)

・他院からの紹介が占める割合は、2013年の48.3%から2022年では63.1%に増加し、特に肺・気管、前立腺の増加が目立つ(図1)

・化学療法件数は、2013年の191件から2022年には135件と減少傾向だが、肺・気管、乳房の割合が増加した。(図2)

・再発例も含む外来化学療法ののべ件数は増加しつつある

・放射線治療件数は2013年が65件、2021年では124件と増加傾向で、肺・気管、前立腺の占める割合が増加した(図3)

・手術件数は横ばいであるが、手術支援ロボットを導入により、前立腺症例が増加した(図4)

考察

- ・放射線治療症例の増加は、がんセンター設立に伴う放射線治療機器が新規導入や診療圏域内での病病連携の影響が考えられる。
- ・手術支援ロボット支援手術が導入されたことで前立腺の紹介症例が増加し、放射線療法の症例も増加した。
- ・化学療法は増加している臓器もある。
- ・院内がん登録では主に初回治療の情報为中心であり、今後、再発治療や緩和医療を含めた解析を行う予定である。

おわりに

今回の結果については院内で情報共有し、がん登録データで得られる情報から、当院のがん診療の強みを知り、院外へむけても発信していきたい。

がん登録に際しては、日ごろから登録のルールを熟知し、比較可能なデータを登録している実務担当者に謝意を伝える。